

## 第5回とよおか教育プラン策定委員会 会議録（要旨）

### ○ 日時・場所

2024年12月3日（火） 13：30～14：20

本庁舎2階 大会議室

### ○ 出席者等

#### 1 出席委員 13名

安藤福光委員長、森山健二副委員長、能登琢也委員、飯塚智士委員、内海忠裕委員、田淵智子委員、尾畑いつ子委員、西垣浩文委員、吉谷稔子委員、小松和巳委員、西田 清委員、加藤みずほ委員、平田知之委員

#### 2 欠席委員 5名

北村美名委員、植田博成委員、久保陽子委員、山本邦彦委員、田畑裕子委員

#### 3 事務局・関係課 15名

嶋教育長

正木教育次長

学校教育課 寺坂課長、服部教育研修センター所長

幼児育成課 向原課長、河本参事、三輪参事

社会教育課 旭課長、奥図書館長

こども未来課 若森課長

こども支援課 吉本課長、鳥居こども支援センター所長

教育総務課 木之瀬課長、栗垣参事、足立係長、森垣

### ○ 会議内容（進行：安藤委員長）

#### 1 開 会

事務局より、欠席者の確認、会議の公開（傍聴の許可、会議資料・会議録のホームページ公開）、会議の進め方について説明。

#### 2 教育長あいさつ

7月2日に1回目の策定委員会があり、本日が5回目、最後の締めくくりの回となった。前回いただいた意見を素案として、お示ししたい。今までの協議の整理だと考え、意見をいただきたい。

11月29日金曜日から豊岡市議会が始まった。市長が総括説明の中で、今回の議案に提出する内容や方針について説明するのだが、今回は第5次とよおか教育プランについて簡単に触れている。基本理念を「豊岡で育む『在りたい自分』と『在りたい未来』を創造する力」、サブテーマを「～非認知能力（やり抜く力、自制心、共同性）を子どもたちに～」として説明した。具体的なことについては3月議会で説明することになるかと思う。

委員の皆さんから意見をいただき、皆さんとともに作ったプランをブラッシュアップし、2

月の策定に向けて進めていきたいと考えている。

### 3 報告事項

#### (1) 第5次とよおか教育プラン（素案）について

##### ア 素案に対する意見と事務局の考え方について

資料1「第5次とよおか教育プラン（素案）」

資料2「第5次とよおか教育プラン（素案）に対する意見と事務局の考え方について」を用いて説明

（説明：学校教育課）

##### 【委員長】

意見、質問等あればお願いしたい。

##### 【委員】

なし。

##### 【委員長】

意見がなければ、本日説明したものを素案として確定し、委員会として了承する。

#### イ 第5次とよおか教育プラン策定後の周知方法について

##### [事務局]

これまで策定委員会で時間をかけて協議いただいた教育プランを、より多くの方に知っていただきたいと考えている。

そこで、策定委員の皆さんから、周知についてアイデアをいただきたい。

前回、第4次プラン策定時は、校園長会での説明、市ホームページへの掲載、教育委員会だよりへの掲載を実施した。また、今回の第5次プラン策定では、9月に豊岡市PTA協議会の研修会で教育プランについて説明した。

第5次プランが完成後、「このような会で説明すればよいのでは」「冊子や概要版をこのような所で配布すればよいのでは」等、グループごとにアイデアを出していただきたい。

～グループごとに意見交換～

##### 【委員長】

質問や意見を発表いただきたい。

## 【委員】

周知の方法について、先程事務局が提案したことは全て有効であるという意見が出た。

はばたきメッセージ等に、教育プランの主な項目やキーワードを掲載しても良いのでは。もっと詳しく知りたい場合はQRコードを読み込むことで、本体の冊子を見ることができるようにするという意見も挙がった。

一方、概要版については、要点を絞り簡単に説明するのは難しいのではないかと意見があった。そうであれば学校長が説明し、各地域で生の声を届けるのが良いのでは。例えば、各団体の長に集まっただき、「豊岡市の教育はこのようなプランで進んでいます」と学校長自ら説明するのが有効ではないかと思う。学校長にそのプランを読み込んでもらい、大勢の地域住民にその思いを届けられるだろうか、という意見もあった。しかしQRコードやホームページ、スマートフォンなどますます便利な世の中になる一方、肉声や膝を交えて会話をするのは大切だと考える。

回覧板などは、あまりの情報量に関心が持てないまま、次のお宅に回されることもある。やはり膝を交え、生の声で届けるのが良いのではないか。とても負担に思われる方もいると思うが、肉声で届けることも大事だと当グループでは話し合った。

## 【委員】

学校長が説明するという話が出てどきとしたが、豊岡市の教育プランを受けて、本校ではどうするのか説明することが学校長の仕事だと思う。学校長は校園長会で説明を受け、各教員に職員会議、研修等で伝えていく。自分たちの学校に落とし込み、目の前の子どもたちをどうするか、と語るのが大事だと思った。

話し合っ中で、小中学校で実施していることが、県立の高校や私立の高校、専門職大学など、県立や私立の教育機関の教員にはほとんど伝わっていない実態があると聞いた。高校等の教員も一地域住民や保護者であることが多いため、地域住民や保護者へ周知することで教育プランを知っていただけるのではないか。もしくは教育委員会からの県立等の学校に教育プランのデータを送付することで、周知を図ってはどうか。

豊岡市公式LINEを多くの市民が登録しているため、SNSの活用も有効かと思う。配信内容については、本編だとボリュームがあるため、概要版を作成し、1枚もので見て分かるようにしては、と意見が出た。

また、子ども不在で教育プランを進めることができないため、概要版は子どもが見ても分かる内容に落とし込みたい。具体的には、10歳の子どもが読んでも分かるようにしたい。ウェルビーイングや非認知能力なども含め、子どもが誤解しない、易しい言葉に直し、概要版を作成してはどうかと。

教育機関では、高校・大学だけでなく、フリースクール等も含めて、子どもたちが関わる全てに周知をすると良いのではと意見があった。

## 【委員】

今回のプランでは、地域と家庭の連携が出てきている。いかに地域の人たちに見ても

らうのかが重要になる。今までのように教員に見てもらうのは、説明会等でできるが、そこをどうするか。「この（本編の）内容を見てください」と言っても、読まないと思う。であればダイジェスト版を作るしかないと思う。しかし、ダイジェスト版もA4で、文章だけでは読み込む前に次の人へ回されるのではないか。そうなると、イラストを入れるのはどうか。ただし、堅いイラストは敬遠する人もいるため、漫画的なものであれば、手に取り読みやすいのではと考える。漫画で「このような場合はこうする方針なのか」というものを作ることにより、より多くの地域の方が手に取り見ていただけるのでは、という意見が出た。

それをどの様な形で見てもらうのか。例えば、コミュニティセンターに置く方法もあるが、ただ置くだけでは取ってもらえないと思う。また、説明を受けないと、回覧板を回しても見てもらえないのでは。そうであれば、それなりの説明の場を作らなければならない。概要版を作り、手に取ってもらい、見てもらうことではじめて、面白そうだなと興味を持っていただけると思う。そのためまずは、「手に取らせる」「見る」をいかにしていくかが重要ではないかと意見があった。

#### 【副委員長】

他のグループから挙げられた意見と似ている。1つ目はダイジェスト版の作成。2つ目はイラストや図表を目で見て分かるものにして入れ込むこと。その中で、第4次プランは読み返すと学校中心のものであり、そこから第5次プランは地域に意識を向けた内容であるため、第4次と第5次の違いについてアピールができれば良いのではと思う。そのためには、学校関係者向け、地域住民向け、子ども向けの説明動画を作成し見ていただくことで、大きなアピールになるのではと思う。人が集中できるのは5分から10分と言われており、その中でまとめることは難しいかもしれないが、時代の流れもあり、動画作成のことも考えていかなければいけないと意見があった。

周知の機会としては、校園長会やPTA会議、その他に毎月児童委員・民生委員の会議があるようなので、そのような会議で説明動画を見てもらうことや、文化やスポーツの組織を通して会員に届けていくことが挙げられた。

#### 【委員長】

色々な意見があり、非常に面白い。しかし、果たして誰がやるのかという議論をしていかなければならない。私は、事務局との事前協議ではコミュニティFMもあると聞き「ラジオで流したらどうですか」と提案した。パーソナリティーの方は元教育委員の方とのことで、教育談義を20分程したらどうかという話になった。そこについても誰が出演するのかという話もあるので、難しいかなと思う。

読んでもらうための工夫や見てもらうための工夫は必要である。他の自治体で教育振興基本計画を策定する際、国が作る概要動画を見た。インタビュー形式であり、映像として説明される良さはあったが、難しい表現の箇所もあった。もしそういったことを行うのであれば、教育関係者だけではなく、一般の多くの人に理解できるような表現上の

工夫も必要になるだろう。お金や労力もかかるため、可能な範囲で豊岡市らしいやり方を模索することが非常に重要だと考える。

事務局はいかがだろうか。

[事務局]

作る段階で、色々な方々に良い意見をいただき、ここでも策定委員と対話を深めながら、一致団結し協議できていると思う。実際に来年度から第5次プランを実施する中で、今回の肝である「豊岡で育む」という部分を、委員の皆さんが理解していないといけない。その時にどう進めていくかを皆さんと共有できるかが1つの課題と考えている。どのように具現化していくかはまだ分からないが、しっかり考えて作っていきたい。

【委員長】

今後の方向性を考えるとすれば、話に出てきた年代で分ける、または対象で分けることもできるかと思う。子ども向けなのか、一般市民向けなのか、教員向けなのか。概要説明については可能ではないかと思う。

また学校長が色々な団体に話をする案が出た。人に説明すると理解が深まる面もあるため、これは学校長だけでなく、先生から自分のクラスの子どもたちに伝えてもらうだけでも、先生の理解が深まると思う。忙しい先生方に簡単なレクチャーは必要かもしれないが、先生が子どもたちに教えることを通して周知する方法もあると考えた。

#### 4 その他

##### (1) 第5次とよおか教育プラン承認までの流れについて

12月定例教育委員会で今回の素案を策定委員会からの報告書として提出。

報告書をもとに、2025年度のより具体的な取組を掲載する「実践計画」を事務局で作成。

内容の精査を行い、冊子として完成させ2025年2月の定例教育委員会で第5次とよおか教育プランとして承認いただく予定。

##### (2) 会議録の確認について

後日、策定委員へ会議録の内容確認を依頼。

#### 5 閉 会 (副委員長)

5回の会議を通して「ウェルビーイング」「幸福感」「幸せ」について考える機会をいただいた。当たり前のように、自分と関わりのない言葉として聞いていたが、それが自分にとってどういうものか考える機会となった。

これまでも「やってみよう」と思いながら挑戦することや「人とのつながり」について意識してきたつもりである。しかし、その中で「何とかなる」という楽観的な気持ちや、「ありのままでもいいんだよ」という自分らしさが大切なのではないかとこの会議の中で教えていただいたように思っている。

また、今回事務局には会議の運営方針、進め方について工夫していただき、より多くの方から沢山の意見をいただく中で、策定を進めることができたのは素晴らしいことだと思う。

このプランは来年度から始まるが、子どもたちの在りたい自分づくりや、在りたい未来づくりにつながることを願っている。